

## 防災ニュース 第10号



### 火災予防を徹底しよう!!

～ 我が家から火を出さない ～

皆様こんにちは。この季節は空気が乾燥し、北風の強い日が続くことから山火事や建物火災に特に注意が必要です。2021年の総出火件数は3万5077件で、毎日どこかで約96件、15分に1件の火災が発生したことになります。防火・消火設備の点検、避難経路の安全確認を徹底しましょう。

また、住宅火災での出火原因は「コンロ」が最も多くなっています。火の消し忘れが約半数ということです。電気コンロを含め、油火災に注意しましょう。天ぷら油（菜種油、コーン油、大豆油など）は、360℃を超えると火種がなくても発火します。卓上の消火スプレー（ABC火災対応）を備えると初期消火に役立ちます。



#### 【 住宅火災での出火原因 】

1	コンロ	2,603件
2	たばこ	1,703件
3	電気器具	1,398件
4	配線器具	1,181件
5	放火	1,050件
6	ストーブ	1,045件
7	電灯電話等の配線	965件
8	放火の疑い	571件
9	灯火	405件
10	たき火	389件

#### 【 特殊な原因で発生する火災 】

発生件数は少ないものの、太陽光による収れん火災、住宅用ワックスなどが出火原因になることもあります。

**ロボット掃除機**：掃除機が電気ストーブなどにぶつかり、可燃物に接触しての出火

**住宅用ワックス**：油成分が空気中の酸素と反応して自然発火（使用した布の放置）

**生ごみや木くず**：大量に放置した場合は、内部での発酵による熱が発生

**室内飼いのペット**：猫のおしっこによる配線のショート、犬が調理器具、暖房器具などのスイッチを押すことが原因となったもの、またウサギが電気コードをかじることで発火の原因になります。猫によっては、室内の行動範囲に新しい電化製品などが設置された場合、おしっこをかけるマーキング行動をすることがあります。

ペットの留守番時にはコンセントを抜きましょう。

**収れん火災**：水の入ったペットボトル、鏡、アクセサリーの吸着盤などが太陽光を収束させ、可燃物に当たることで発生する火災。秋から冬に発生しやすいそうです。



消毒用アルコール（エタノール）は気化すると引火しやすい。ジェルタイプも同じです。（消毒用は除菌用に比べて濃度が高い）

**暖房器具の付近で使わない、置かないことを徹底！  
調理器具、卓上コンロ等の近くもたいへん危険！**

事業所などで屋外に設置した灰皿近くに、アルコール消毒液を置くのも危険です。衣服やマスクなどを消毒した後は、完全に乾く前にストーブなどに近づけない。可燃性ガスを含むスプレーなども同様です。取扱いにご注意を！

アルコールは気化した場合、低い場所に滞留しやすくなります。犬や猫はアルコールに弱く、たいへん危険です。体内で分解できずエタノール中毒になると、命を落とすこともあります。小鳥などを含め、室内飼いのペットにご注意を。

### 【 暖房器具の点検、変質灯油は使わない 】

暖房器具を使い始める前の点検もお忘れなく。ストーブの灯油缶やポリタンクに残った前シーズンの灯油（変質灯油）は、不完全燃焼の原因になります。スイッチを切っても完全に消火できずに燃え続けることがあります。使用中だけではなく、就寝中や外出中の火災につながります。

豊川市では、灯油の廃棄は受け付けていません。ガソリンスタンドなどに相談しましょう。側溝などに流すと環境汚染だけでなく、不法投棄になります。



### 【 命を守る7つのポイント 】

火災による死亡の約8割は煙や可燃物が燃えることで発生する有毒ガス（一酸化炭素、塩化水素、シアン化水素など）によって、逃げ遅れることが原因と言われています。寝タバコでは灰皿にたまった吸い殻が燃えるだけで、有毒物質を含む大量の煙が部屋に充満します。煙に気づき目が覚めても体の自由が奪われ、逃げ遅れるケースも少なくありません。消防庁では、住宅用火災報知器の点検（電池切れの確認など）・交換（10年が目安）を呼びかけています。

#### 3つの習慣

- 1 寝タバコは絶対やめる。
- 2 ストーブは燃えやすい物から離れた位置で使用する。
- 3 ガスコンロなどのそばを離れるときは、必ず消火する。

#### 4つの対策

- 1 逃げ遅れを防ぐため、住宅用火災警報器を設置する。（10年目安で交換）
- 2 寝具、衣類及びカーテンは防災品を使用する。
- 3 火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器等を設置する。
- 4 お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる。

以 上